

認知症対策先進国として世界に発信

◆国際アルツハイマー病協会（ADI）国際会議が京都で開催

2017年4月、国際アルツハイマー病協会（ADI）が主催する国際会議が、京都で開催される。日本は、ホスト国、世界で最も高齢化の進んだ国として、現在取り組んでいる認知症対策「新オレンジプラン」の成果を発表する予定だ。

世界は、認知症の予防と治療に関する研究開発に尽力しているが、現時点で、有効な治療法は存在しない。そのため、認知症対策も、増える認知症高齢者の社会への受け入れと認知症高齢者の意思の尊重と尊厳の保持に重点が移っている。認知症高齢者による自動車事故や、虐待など、認知症の増加に伴う社会的な課題も増えている。同会議は認知症に関する啓発と認知症に対する社会のより一層の理解の契機となることが期待されている。

◆「新オレンジプラン」の成果と認知症対策の強化

「新オレンジプラン」は、「認知症高齢者等にやさしい地域づくり」を目指し、12省庁が一体的に推進している。具体的な対策、成果は多岐にわたるが、主なものとして、① 認知症高齢者やその家族同士の交流を深め、認知症悪化の防止を図ることを目的として、認知症グループホームや認知症カフェなどの整備を進めた。② 認知症高齢者への虐待を予防、偏見をなくすために、自治体における保護システムの整備、認知症に対する正しい理解の啓発・教育活動を行った。③ 認知症を理解し、認知症高齢者やその家族を支援する一般人に対する認定制度として発足した「認知症サポーター」が16年8月時点で800万人に達した。④ 医療・介護の専門職からなり、認知症高齢者やその家族を集中支援する「認知症初期集中支援チーム」、認知症高齢者やその家族の相談相手となる「認知症地域支援推進員」の全国市町村での組織化を推進した。他、認知症ケアロボットや見守りシステムなどのIT活用の好事例も増えている。

このような、国をあげての地域主導型認知症対策は、世界に類を見ない。ADI会議を通じて、これらの先駆的な事例を世界へ発信し、世界の認知症対策をリードすることに期待したい。

【毛利光伸】